大電本社前に殺到した二千の大衆

又も警官隊と大衝突

十三―中之島―大電本社前を經て
安治川發電所前で大亂鬪

大群二千警官の暴行を憤激す

一度堤を決した大電罷工團は十五日夜安治川發電所前で再び警官隊と衝突した、罷工團が勢を挽し熱狂するに從つて警ふべき形勢を醸致しつゝある、此先何處迄此勞働運動が惡化するか全く逆睹し難い此時が自然化せぬ以前に官憲も勞働者も大電も冷靜に且愼重に解決策を講ずる責任がある川俣不安に襲はれる百五十萬市民の迷惑を思ふ時解決策は自ら決するであらう

十五日午前大阪電燈の罷業職工團は社の内外を固めてゐた百四十名の警官隊と合せて四百餘が大阪北部淀川岸の十三驛に自轉車隊の運動會を催し競技を終つた後午後三時中之島公園に赴き更に憤慨會の演說を試みたことは既記の通りであるが此の一團はやがて隊次を加へて約二千の大隊となり小走り氣味に大電本社前に殺到、一時に喊聲を擧げワッショ〳〵を繰返して一旦堤を決した大電罷工團は十五日夜安治川發電所前で再び警官隊と衝突した、罷工團が勢を挽し熱狂するに從つて警ふべき形勢を醸致しつゝある、此先何處迄此勞働運動が惡化するか全く逆睹し難い此時が自然化せぬ以前に官憲も勞働者も大電も冷靜に且愼重に解決策を講ずる責任がある川俣不安に襲はれる百五十萬市民の迷惑を思ふ時解決策は自ら決するであらう

十五日午前大阪電燈の罷業職工團は社の内外を固めてゐた百四十名の警官隊と合せて四百餘が大阪北部淀川岸の十三驛に自轉車隊の運動會を催し競技を終つた後午後三時中之島公園に赴き更に憤慨會の演說を試みたことは既記の通りであるが此の一團はやがて隊次を加へて約二千の大隊となり小走り氣味に大電本社前に殺到、一時に喊聲を擧げワッショ〳〵を繰返して

漸く解散

一部は新町へ

警官隊の内外を固めてゐた百四十名の警官隊と合せて四百餘が大阪北部淀川岸の十三驛に自轉車隊の運動會を催し競技を終つた後午後三時中之島公園に赴き更に憤慨會の演說を試みたことは既記の通りであるが此の一團はやがて隊次を加へて約二千の大隊となり小走り氣味に大電本社前に殺到、一時に喊聲を擧げワッショ〳〵を繰返して「前進々々」と聲かけて西進、警官隊の一部は北へ維新橋から上福島の友愛會本部に向はんとした刹那驅り立つ集團中に「安治川發電所へ」の聲起るや共に赤もワッショ〳〵の掛聲共に進軍喇叭を吹奏し乍ら安治川發電所目指して殺到した、時に五時半分、西尾友愛會主事、東淀日出支部より後記として助役久氏一條日出雄氏の出馬を求めて直に解散を命じたので又も小競合が行はれたが警官の制止により午後九時漸く解散した

對込町でも小競合

九時漸く解散

警察側が警戒の主力を安治川發電所に注ぐや友愛會は之に對抗して勞働運動の外に友愛會所屬の各組合、關西全體の組合を擧げての大示威運動を起すべく、其の第一歩として對込町の電業員組合事務所に集合した群衆の一部約三百名は午後八時對込町の電業員組合事務所に集込み不穩の空氣の中に交々起つて警官の橫暴を憤り檢束された職工を如何にして救ひ出すかにつき協議してゐた際遲れはせに約百名の警官が自動車に分乘して馳つけ直に解散を命じたので又も小競合が行はれたが警官の制止により午後九時漸く解散した

勞働

一騒ぎなくては治まらぬらしく、

警察本部側は昨夜俄に歸宿した田中警察部長以下加々見特別高等課長、大木監察官等朝田谷刑事の各課長、大木監察官等朝來之が實戰方法に就て協議を重ね、所謂する事になり、同夜は又もや

最後

の演說會を催すべく、

當夜は市役所落成のお祭騒ぎには全市に渡つて戒嚴令的の大警戒

遂に

十六日夜最後の演說會

期日は市役所落成のお祭騒ぎに

全市戒嚴令的の大警戒

大電電業の罷業團問題は、十五日夜電燈の罷業團と又全國二回の大示威を滅し血の慘事を見たが、日曜日になつた罷業團及び警官隊は十七日大阪市廳舍落成祝賀會の當夜を襲撃して、天王寺公會堂に

日本商行の
金銀器各種
東區區役所前門町二（數寄屋橋外）電話東橋二〇九七番